

下部消化管穿孔による急性汎発性腹膜炎における DIC 予測因子および予後予測因子の検討

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

下部消化管穿孔性腹膜炎は発症早期に敗血症ショックやDICから多臓器不全に陥ることがある重篤な病態であり、救命のためには早期診断、早期手術および重症感染症に対する集学的治療が必要となります。DICに移行すると予後不良となる可能性が高く、その予測は臨床的に重要です。本研究は下部消化管穿孔性腹膜炎の重症化因子を術前・術後因子から明らかとすることを目的としており、診療を通じて得られた情報のみを使用し、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2020年4月から2024年7月までの間に当科で下部消化管穿孔による急性汎発性腹膜炎に対して手術を施行した方

使用する試料・情報

年齢、性別、BMI、入退院日、術式、手術時間、術中出血量、術後合併症、血液検査各データ、術前・術後バイタルサイン、生存転帰

使用開始予定日：2024年10月23日

研究予定期間

2024年10月23日～2025年04月30日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 外科 八木泰佑

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 外科 八木泰佑

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)